

（２）歴史的町並み保存事業

名古屋市では、「名古屋市町並み保存要綱（昭和 58 年制定）」に基づき、「有松」、「白壁・主税・槿木」、「四間道」、「中小田井」の 4 地区を町並み保存地区に指定し、市内に残る優れた歴史的景観を後世に伝えるために、地域の人々の理解と協力を得て、町並みを保存しつつ、良好な住環境の整備を図ることにより、地区の特性を活かしたまちづくりを行っている。

保存地区内では、町並みの特性を維持している古い建造物（建物・門・塀など）を「伝統的建造物」として指定し、各地区に、伝統的建造物を対象とした「修理基準」と、伝統的建造物以外の建造物を対象とした「修景基準」を定めている。

修理基準では、建造物の修理を行う際には伝統的な建造物の様式にならって復原・修理することなどを定め、修景基準では、建築行為等を行う際には周囲の町並みに調和するように配慮することなどを定めているが、保存地区内において、建築物や工作物の新築、増改築、除却等を行う場合は、事前に届出をするよう要請している。



町並み保存地区と重点区域の位置

《白壁・主税・橿木町並み保存地区内の伝統的建造物の例》



文化のみち橿木館



旧豊田佐助邸



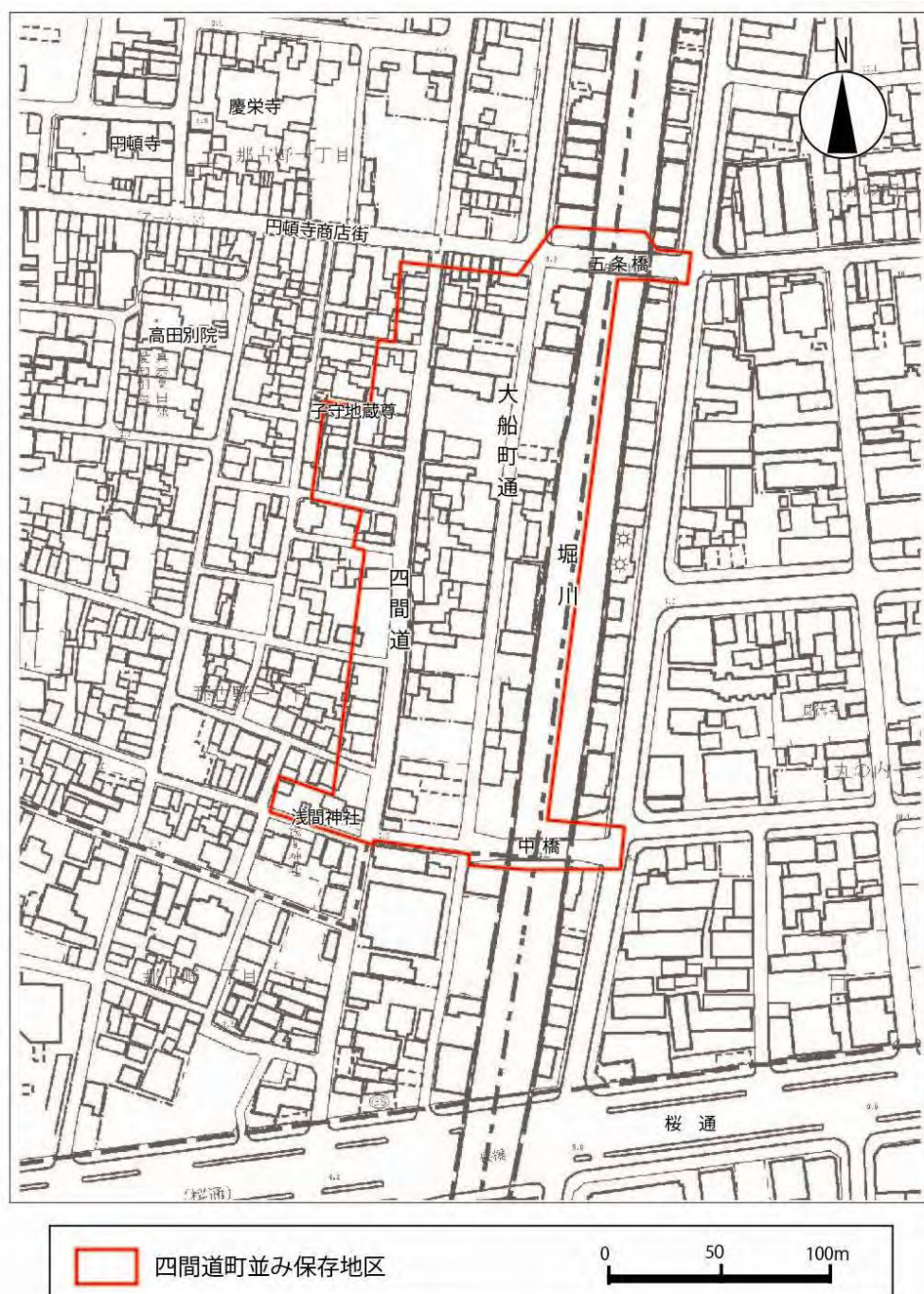
旧豊田家（門・塀）



旧春田鉄次郎邸（門・塀）

イ 四間道地区 約 2.8 ヘクタール

四間道地区は、慶長 15 年（1610）に始まった清須越しにともなうにつくられた商人町で、堀川の水運を利用して隆盛を誇った清須越し商人の栄華の跡である土蔵群と町家が城下町の面影を残している。



《四間道町並み保存地区内の伝統的建造物の例》



伊藤家住宅



四間道沿いの土蔵

(3) 景観計画

名古屋市は、都市空間がすべての市民にとってかけがえのない共有財産であるとの認識のもとに、名古屋のまちをさらに美しく魅力あふれた快適な都市に育て、これを次代の市民に引き継いでいくため、昭和 59 年に都市景観条例を制定した。

名古屋市では都市景観条例に基づき、都市景観の整備を総合的かつ計画的にすすめるため、基本的な目標などを明らかにした「都市景観基本計画」を昭和 62 年に策定している。

この計画の中では「ふれあいと調和」を基本理念とするとともに、以下の 4 つのめざすべき都市のイメージを設定し、それを基本目標としている。

- 秩序ある都市空間の中にゆたかな自然をとり入れた美しいまち
- 活気にみちた魅力あるまち
- 歴史の深みを感じさせるまち
- 人びとの心遣いとときめきをかもしだすまち

その後、平成 16 年 6 月に景観に関する総合的な法律である「景観法」が制定されたことから、それまで実施してきた都市景観に関する施策を踏まえ、良好な景観の形成をめざすためのより効果的な制度とするため、平成 19 年 3 月に景観法に基づく「名古屋市景観計画」を策定した。

都市景観基本計画の基本理念、基本目標などを踏まえ、景観計画においても、都市景観基本計画で示した 4 つの都市のイメージの実現を図ることを景観形成の全体方針としている。

景観計画では、市内全域を景観計画区域として、良好な景観を形成するための方針、建造物等を建築する場合に守るべき景観形成上の基準、景観上重要な建造物・樹木の指定方針などを定め、都市景観条例と一体となって運用されている。

ア 都市景観形成地区

名古屋市は、昭和 59 年に定めた都市景観条例に基づき、都市景観整備地区を平成 62 年～平成 9 年にかけて、6 地区（久屋大通地区、広小路・大津通地区、名古屋駅地区、四谷・山手通地区、築地地区、今池地区）を指定し、地区内における公共施設の景観整備を実施するとともに、年間約 200 件の建築物、工作物、屋外広告物の新築などについて届出を受け、都市景観形成基準に基づき、助言・指導を行ってきた。しかし、都市景観整備地区では、当時定めた都市景観形成基準が運用面で実態と合わなくなり、基準の見直しや新たな基準づくりが必要となってきた。

そこで、景観法に基づく景観計画において、従来の都市景観整備地区 6 地区は、都市景観形成基準の見直しを行った上で、「都市景観形成地区」へと移行した。

平成 23 年 10 月には、「白壁・主税・檀木地区」を新たに指定し、現在は、7 地区を「都市景観形成地区」として指定し、地区内の住民等の理解を得ながら、それぞれの地区にあった基本方針と建築物、工作物、屋外広告物などについての基準を設定し、良好な景観の形成をすすめている。

特に、屋外広告物については、基準の一部を屋外広告物条例に基づく許可の対象事項とすることで、基準の実効性を高めている。

本計画の重点区域である「名古屋城周辺地区」は、7 つの都市景観形成地区のうち、久屋大通地区、広小路・大津通地区、白壁・主税・檀木地区と名古屋駅地区の一部を含んでいる。